

令和6年度教育事業「子ども地球探検隊」報告書

1 趣 旨 国立花山青少年自然の家と栗駒山麓ジオパークの豊かな自然のもと、自然体験活動や見学等を通じて、自然の雄大さを感じ取り、自然の仕組みについて理解を深めるとともに、その保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。

2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
栗駒山麓ジオパーク推進協議会

3 後 援 宮城県教育委員会、栗原市教育委員会

4 事業の概要

(1) 期 日

令和6年9月21日(土)～23日(月・祝)【2泊3日】

(2) 参加者

① 参加対象 小学校5年生から6年生 24名程度

② 参加状況 参加総数23名(応募者数28名)

5 場 所 国立花山青少年自然の家、栗駒山麓ジオパーク

6 講 師 栗駒山麓ジオパーク推進協議会 専門員 原田 拓也 氏

7 企画・運営のポイント

本事業は、特色化事業の4年目にあたる。昨年度までは、「岩石標本作り」のプログラム化を目指し、事業実践を重ねてきた。しかしプログラム化にあたり安全面に課題があったため、「岩石標本作り」ではなく、「沢札」という新プログラムを開発した。今年度は、事業の中に新プログラム「沢札」を盛り込み、その有効性を検証することがポイントの1つである。

「沢札」は、ジオパーク専門員と共同開発した教材で、沢登りの遊び方や沢にいる生き物、沢の特徴などをカード化したものである。トランプやすごろくのように遊ぶことができる。沢活動の事前学習や事後学習に「沢札」を行うことで、ジオポイント(地形や石の特徴など)の興味関心が高まり、岩石の種類や流れる水のはたらきなど理科学習の理解も深まると考える。

また、2つ目のポイントはジオパーク連携事業のパッケージ化である。今年度は「水の力」をテーマとした。本事業をモデルパッケージとし、学習旅行の一例として利用団体に示していく。

8 日 程

9/21 (土)	JRくりこま高原駅に集合し、栗駒山麓平野部の様子を見ながら栗駒山麓ジオパークビジターセンター(以下「ビジターセンター」という)まで移動。ビジターセンターでは、展示資料やガイドによる解説で、栗駒山麓の風土を知り、河川実験装置「エムリバー」を用いて、水の流れるはたらきを学んだ。岩石標本づくりを行い、栗駒山麓の地形と関連付けながら、大地のつくりについて理解を深めた。
9/22 (日)	「沢登り」を計画していたが、大雨のために変更。午前は、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター(鳥館)と栗原市サンクチュアリセンターつきだて館(昆虫館)を見学し、ガイドによる解説で水辺の生き物について学んだ。午後は、刃物を使わずにイワナをさばき、塩焼きにして食べる活動を行った。イワナが、栗駒山麓の豊かな恵みの1つであることを学んだ。夜はオリジナルカードゲーム「沢札」を行い、沢登りへの興味関心を高めた。
9/23 (月・祝)	「沢登り」の予備日としていたが、川の水位が下がらず、変更。午前は「細倉メインパーク」の坑道見学や砂金取りを行い、ガイドの説明のもと細倉鉱山1200年の歴史を学んだ。午後は、「くりでんミュージアム」を見学した。かつて市内を東西に走っていたくりはら田園鉄道の功績を学んだ。

9 活動の内容について

【9月21日（土）1日目】



「エムリバー」による河川実験



岩石標本づくり



ビクターセンター見学

【9月22日（日）2日目】



ジオガイドから水辺の生き物を学ぶ



イワナの塩焼き体験



新プログラム「沢札」の様子

【9月23日（月祝）3日目】



細倉マインパーク見学



砂金取り体験



くりでんミュージアム見学

10 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：78.3% やや満足：21.7% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・岩石標本作りで栗駒山の岩や石を見てすごかったし、岩石標本作りもすごく楽しかった。
- ・災害についての学習で、川の流れが変わったり、早さや強さが変わったりすると、家が流されたりして危険だということが分かった。
- ・サンクチュアリセンターでは、鳥を見ることができて、立ち方や飛び方などが違ったりしてすごいと思った。
- ・イワナについて学習して、イワナの命も大切にして、お魚も人間と同じ命を持っているので、大切にしようと思った。
- ・沢札を初めてやって、とても楽しかった。今回できなかった沢登りをやってみたいと思った。
- ・細倉マインパーク見学では、砂金を取りに行くときに洞くつを通して色々見ることができて楽しかった。
- ・昔から続いていた鉱山のことや、生きているイワナを調理するなどやったことのないことができて良かった。
- ・くりでんミュージアムは、体験するところがあってとっても楽しかったので、心に残った。
- ・来たのは初めてで不安だったけれど、友達もたくさんできたとし、水の力の勉強もしっかり知れたので良かった。

(3) 成果

- ・新プログラム「沢札」を事業内で実施することができた。事業の前に実習生に協力してもらい、「沢札」の遊び方や沢登りへの効果などを検証した。事業では2日目の夜に1時間半ほど「沢札」行ったが、参加者は飽きることなくゲームを楽しんでいた。また、ゲームをする中で前日に岩石標本作りで学んだ岩石の名前を思い出したり、沢登りへの関心を高めたりしていた。
- ・栗駒山麓ジオパーク推進協議会と共に、「水の力」をテーマにした教育旅行のモデルパッケージを作ることができた。今後、1つの例として利用団体に宣伝していきたい。
- ・大雨のため沢登りができず、急遽「細倉マインパーク」「くりでんミュージアム」を見学することにした。専門員原田氏のコーディネートでジオガイドを派遣していただき、大変学びが深まった。予定した内容と違ってしまったが、栗原市内のすべてのジオパーク関連施設を巡ることができ、貴重な体験となった。
- ・イワナの塩焼き体験は、参加者から大変好評だった。「生きているイワナをつかめて楽しかった」、「包丁を使わずにイワナをさばけるなんて知らなかった」との声があった。
- ・事業中にSNS（インスタグラム）を通して、参加者の活動内容を発信した。保護者から「楽しそうにしていて安心した」「家族で楽しみに見ていた」と好評の声があった。保護者の安心感を得ることができ、また事業内容のPR活動にもつながったと考える。
- ・2泊3日、学生ボランティア及びスポーツマネジメント実習生が7名帯同し、参加者との交流を深めた。安全面のサポートだけではなく、分からない言葉を一緒に調べたり、学んだことを振り返ったり、学習面でもサポートをしてくれた。大学生の存在が、参加者の学び合いに大変有効であると感じた。

(4) 課題

- ・沢登りが実施できなかったため、沢登りの事前学習で「沢札」が有効であるか、検証が不十分となった。次年度、利用団体に協力をいただき検証していきたい。
- ・大雨で沢の水位が高かっただけでなく気温も低かった。開催時期が悪かったと思う。沢登りの事業は、遅くとも9月上旬までに実施したい。
- ・雨プログラムは、活動日を入れ替える形で準備をしていたが、連日大雨で野外活動が全くできず、急遽施設見学を行うこととした。子ども地球探検隊は天候に大きく左右される事業なので、様々な場合を想定して計画していきたい。
- ・テーマは「水の力」であったが、急遽変更した「細倉マインパーク」「くりでんミュージアム」は、テーマとの関連性が難しかったように思う。テーマと活動の関連性を丁寧に説明することが大切だと分かった。
- ・火傷や部屋での怪我が多かった。参加者の様子を見ながら細かな声かけをしたり、安全対策を講じたりすることが必要だと感じた。
- ・新プログラム「沢札」を有効に活用できるように、カードの内容や遊び方を検討し、広報していきたい。

担当：企画指導専門職 渡邊 愛